

もう少し教えて！

丸源アグリのアレコレ

あれこれ さいばい
① 栽培しているネギは7品種！

同じように
見えて、様々な
ネギがあります



丸源アグリで生産している ネギの品種名

- 主なネギ
- ☑ ホワイトスター
 - ☑ ホワイトタイガー
 - ☑ ホワイトソード
 - ☑ はねどりいっぽんふと
 - ☑ 羽緑一本太
 - ☑ たいがとどろ
 - ☑ 大河の轟き
- 夏のネギ
- ☑ めいげついちもんじ
 - ☑ 名月一文字
 - ☑ 大地の響き

あれこれ
② 分かりやすいデザイン！

お店で見つけやすい
ように作ったロゴと
パッケージデザイン！



ひと目で「丸源」のネギと
分かるように、見せ方にも
こだわりと工夫が。



「給食に出たネギなら
食べられる」とネギの
苦手なお子さんに言って
もらえたのがうれしかったなあ。

あれこれ
③ ほかに美味しい野菜！

ネギのほかに時期をずらして
春夏の野菜も作っています

3~5月
ブロッコリー



6~7月
スイートコーン



7~8月
かぼちゃ



いっしょに収穫を手伝う
杉戸農業高校の生徒さん

丸源アグリで はたらく 人たち



丸源アグリでは、杉戸農業高校の生徒さんをはじめ、
インターンシップの対応も常に受け入れています！

青空の下、みんな
で汗をかいています！

丸源アグリでは、多くのパートさんや社員さん、インターンシップで働くみなさんの活気に
あふれています。チーム丸となって、おいしいネギをお届けするスタッフたちをご紹介します！

杉戸町に住む
ベテランスタッフ！

パート歴6年
平井さん



ここで作業するまで、ネギは1
種類しかないと思っていました。
頼りがいのある栗原さんのもとで
いろいろな品種を知ることがで
き、ネギの成分といい香りに包ま
れて、不思議と風邪を引かなくな
りました。丸源さんのネギは
どれも甘くておいしいですよ！

世界の食糧問題から
農業の道へ！

社員歴1年
吉田さん



SDGsの食糧問題を考えたとき、
自分も生産する立場になりたいと
思い、サラリーマンを辞めて農業
の道を選びました。
丸源アグリさんは恵まれた環境
で、働きやすい職場。
将来は会社を支えられる人材へ
と成長していきたいです！

独立を目指して
インターン中！

インターン5ヶ月
宮本さん



不動産業をしていましたが、ネギ
農家として独立したくてインター
ンを希望。受け入れ先の農家を
探していたとき、丸源さんの紹介
を受けました。社長ご夫婦はお
兄さん、お姉さんのように面倒を
見てくれます。夢は、丸源アグリ
さんからの「のれん分け」第一号！

Let's Try! /

農業というお仕事について

関心のあることや、聞いてみたいことなどを書き出しておこう！



これから大人になって
夢をカタチにするみなさんへ

今はなんでもすぐに調べられる時代。
自分の気持ちにしたがって、おもしろいと感じたことや
気になる分野があったら、まずは気軽に調べてみてね。
興味があることに飛び込んでみると、すべての経験が
未来の自分につながっていくと実感しています！



MARUGEN

丸源アグリ株式会社
〒345-0043
杉戸町大字下高野 361-1
TEL: 0480-32-3700



Facebook

栗原さんはココにいます！



働きやすい環境で、みなさんの
明るい笑顔が印象的な作業所。
近くを通りかかるとネギの良い
香りがたどってきます。

はたらく人の心が見える

しごとの こころ

すぎと男女共同参画情報紙

Vol.2

今回のこころ

ネギ農家の 代表という仕事

丸源アグリ株式会社
代表取締役

栗原 理恵さん

本紙は、杉戸町で活躍している素敵な方を紹介する情報紙です。普段は見えない現場の様子や聞く
ことができないところの部分にクローズアップし、あなたの未来へつなぐお手伝いをします！

未来につなぐ杉戸のコト /
スギトゴト

ネギ農家さんて どんなお仕事?

まずは教えて!
これまでのこと

今の仕事を始めるまでどんな時間を
過ごしてきたのでしょうか?

「宇宙」を身近に
感じた子ども時代

小学校4年生まで、茨城県つくば市に住んでいた栗原さん。両親と兄弟3人、祖父母という計7人の大家族で賑やかに育ちます。外遊びが大好きで、当時夢中になっていたのはローラースケート。広い空の下で思いっきり遊びながら、近くに建つ「つくばエキスポセンター」の大きなロケットを眺めては、「宇宙ってカッコイイ」とぼんやり思っていたのだそう。



大人になってもずっとローラースケートがしたいと思うほど、活発だった栗原さん（左）



子どものころよく眺めていた「つくばエキスポセンター」の大きなロケット
© つくばエキスポセンター

4人の子どもを育てながら、丸源アグリ^{まるげん}の社長として会社を切り盛りする栗原理恵さん。結婚するまでは農業と無縁だった栗原さんが、ネギ農家の社長になったのはどうしてなのか、お話を聞いてみました。

お話の人
栗原 理恵 さん
(丸源アグリ代表)



ネギのことなら
おまかせ!

「じゃんけん」で
会社の社長に!

身も心も鍛えた
大学時代



高校卒業後は、子どもの頃から憧れていた「航空宇宙工学科」のある「防衛大学学校」へと進学。家族のもとを離れ、朝起きてから夜寝るまで集団で過ごす寮生活を送りました。毎日の厳しい訓練^{くんれん}を、栗原さんは持ち前の根性でやり抜きます。卒業論文ではロケット燃料の研究に取り組み、得意な数学をいかしてプログラミングを担当。仮説と実験のデータを比較分析し、それを何度も繰り返してまとめました。卒業後は一般企業へ就職し、そこで将来のパートナーとなる源さんと出会います。



丸源アグリを始めてからのこと

1 農業の効率化と拡大

栗原さんは自ら大きなトラクターを運転したり、導入した機械の操作を従業員に教えるなど、効率化をすすめて農業を拡大していきます。今ではサッカーコート約17面分と同じ、全12ヘクタールの畑と、年間約200万本ものネギが出荷できる大規模農家へと成長しました。



もともと体を動かすのが好きだった栗原さん。子育てをしながらトラクターの運転を覚えてもらい、大空の下で農業の楽しさを覚えました。

男女問わず、機械の操作ができるようにサポートしています

2 ネギは自然との長期戦!

収穫まで長い時間のかかるネギは、天候の影響を受けやすく、長雨は大敵! 数年前には梅雨が2ヶ月も続き、広い範囲で被害を受けるという苦い経験も。しかし栗原さんは、「毎年状況が違うからこそ、達成感があって農業は飽きないんです」と、課題をクリアすることに農業のおもしろさを見出しています。

3 持ち前の分析力を発揮

ネギは、畑が変わると同じ品種でも味が変わってしまうほど、土との関係が大切。出荷先から「畑変えた?」と指摘を受けたことも。栗原さんは、過去の状況を分析し、味が保てるよう、土づくりに工夫を重ねます。その結果、ネギ専門の卸先やレストランのシェフなど一流の職人から深い信頼を得られるように。

4 未来への取り組み

さらに栗原さんは、持続可能な農業を証明する「GAP」にも挑戦。栽培方法や働く環境を見直して、誰もがよろこぶ食の安全を目指しました。認証されるまで苦労はありましたが、「子どもたちに安心でおいしいネギを提供したい」との思いから、今では杉戸町の学校給食に利用されるなど、信頼の輪がさらに広がっています。

※ GAP (Good Agricultural Practices) は、「良い農業の取り組み」という意味。農業生産工程管理と呼ばれ、環境保全や食品安全、労働安全などによる、農業の持続性に向けた取り組みのことを指します。



農業と宇宙は
つながってる!

お話のまとめ

「会社の代表と言っても、私はマネージャーみたいなもの」と話す栗原さん。複雑な経営全体を陰で支えながら、これまで身につけた忍耐力と分析力を活かし、持続可能な農業への挑戦は続きます。今回お話をうかがって、子どもの頃「宇宙ってカッコイイ」と感じていた栗原さんが、太陽という宇宙(そら)の下で農業をしている姿は、すべてつながっているように映りました。

ネギがぶ店に
並ぶまで

1 苗づくり

春先にタネをまいて、畑へ植え付けするための苗を育てます。

2 定植

畑にみぞを作り、苗と共にワラや肥料を入れて土をかぶせます。

3 土寄せ(3~4回)

収穫まで周りの土を根元に寄せ、ふらつきや雑草を防ぎ、白根を伸ばします。

4 追肥・消毒

土寄せと同じく、時期ごとに肥料を与え、消毒して病気を防ぎます。

5 収穫

畑の中で長い時間をかけて育ったネギを収穫し、たばねて作業場へ運びます。

6 出荷

1本ずついいねいにネギのサイズや葉先を整えて、お店や飲食店へと出荷します。

